ギムレット
（ペンネーム）

マンハッタンを飲んだ後は？

今回は一応一区切りということで、カクテルの王様と女王にまつわる話をしましょう。話の一部が「R18指定」的になっています。

カクテルの王様マティーニ

基本的にジンとベルモットをステア（注・ミキシング・グラスに入れてティースプーンでかき混ぜること）してオリーブを添えるカクテルですが、ジンの銘柄、ベルモットの種類、レモン・ピール（注・小さく切ったレモンの皮をカクテルの上から軽く搾ること）するかしないか、ということで、一説には200種類以上のバリエーションが存在します。20世紀の初めまでは、ロンドン・ドライジン1、フレンチ・ベルモット1、オレンジ・ビターズ1ダッシュという配合だったとのこと。その後マティーニは年を追って増々ドライになり、どのくらいまでドライなマティーニを好むかということで、通ぶりを競った話があります。ウィンストン・チャーチルはベルモットの瓶を眺めながら、ジンをストレートで飲んだとか、執事にベルモットを含ませ「Vermouth」と囁かせたという。もう一つ、20対1のドライ・マティーニを注文した男がいた。バーテンダーは20対1で調合し「レモン・ピールはいかがでしょうか」と聞くと「よしてくれ。レモネードを飲みたいときは、はじめからレモネードを注文する」と答えたとか。

オレンジ・ビターズ

ブラディ・メアリー

16世紀半ばのイングランド女王メアリー1世はカソリックで、プロテスタントを多数処刑しました。その残虐行為による色と相まって、ウォッカをトマトジュースで割るカクテルの名前がブラディ・メアリーになったといいます。またジョージという酔っ払いがあるバーに入ったところ、バーテンダーがいなかったので、カウンターにあったウォッカとトマトジュースを勝手にグラスに注いで飲んでいました。そこにメアリーという店員が現れて、酔っぱらいのジョージを罵倒しました。彼は驚きのあまりメアリーの白い前掛けにグラスの飲み物をかけてしまってから一言。「Aren't you bloody Mary?」

カクテルの女王マンハッタン

マンハッタンは、例えばライ・ウイスキー1にスイート・ベルモット1ティースプーン、アロマチック・ビターズ1ダッシュにチェリーを1粒飾って作ります。甘口ですが、かなり強い。このカクテルに関して私自身が体験した意味深な話があります。あるバーで、男性客がこのカクテルを注文したところ、バーテンダーから次のようなことを言われていました。「マンハッタンは男性が一人で飲むお酒ではありません。それを飲んだ後にシャワーを浴びて体を拭くとスイート・ベルモットの甘い香りが全身から漂ってくるので、カップルが「Make love」の前に飲むカクテルです」と。因みに私は甘いカクテルはほとんど飲みません。

ミキシング・グラス